

第2版はしがき

今回の改訂では、関西学院大学法学部教授・山田直子が共同執筆者として参加する。本書は、学者が学術研究を踏まえて刑事訴訟法大系をまとめる「学術体系書」ではない。予備試験または司法試験にチャレンジし法曹を目指す段階で身につけるべき刑事訴訟法の「基本」を示すことを目標とする。その刑事訴訟法も立法で変容する時代になった。これまで大きな問題とされてきた再審についても立法改正が現実味を帯びてきている。必要な改訂は今後時期をみて実施したい。

法律文化社編集部梶原有美子氏には、大変丁寧なご指導とご配慮をいただいた。感謝の念に堪えない。

2025年10月22日

渡辺顕修・山田直子

初版はしがき

これは、法科大学院でのプロセス教育または予備試験を経て司法試験にチャレンジし、法曹を目指すのに必要な刑事訴訟法の基本知識を概説する教科書である。

実務を担う法曹となるには、刑事訴訟法の「基本的な流れ」とこれを支える「条文・判例」を広く・正確に理解する必要がある。次に、各事件に沿ってこれらを「使う」かたちで深める理解力を必要とする。本書は、この視点にたって刑事手続の「基本的な流れ」を解説する。重要な判例は【CASE】欄で解説することとし、他方、様々な制度論、用語、学説と私見などは適宜【★MEMO】欄で紹介することとした。

法曹には、法制度と法実務を批判的にみる精神が必要であるが、これは現場の不当さや実務の矛盾など現場に接して学ぶものである。そのためにも、法曹の基礎力としては、まず刑事訴訟法の「基本的な流れ」と「条文・判例」の確かな理解が不可欠だ。

本教科書が、法曹を目指す場合に必要な刑事訴訟法の理解を助けるのに成功しているかどうかは読み手に聞くしかない。足らざる点は、今後の改訂を通じて補正したい。

法律文化社企画編集担当取締役秋山泰氏には、数年前に企画を御提案いただきながら原稿完成を遅らせている筆者を辛抱強く待っていただいた上、編集にあたりきめ細かなご配慮をいただいた。感謝したい。

2014年5月3日

著 者